

# あがつま



年間聖句

『兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。』

(ガラテヤの信徒への手紙 5章 13節)

賛美歌を歌おう③

『あまつましみず』

讃美歌…217番)

ヨハネ福音書四章一四節を基に作詞された賛美歌で、“天つ真清水”つまり『命の水』に与る幸いを歌う賛美歌です。

作詞者の永井英子 (1866 - 1928) は日本の新聞草創期のジャーナリスト。足尾銅毒事件を契機に毎日新聞社に入社。一九〇一年十一月より、五九回にわたって足尾銅山銅毒事件について、その惨状を紙面で訴えました。

一八七三年にアメリカから来日したメソジスト派宣教師のデヴィソン (Davison John Carol) の助手としてメソジスト教会系の最初の楽譜付きの本格的歌集『歌数 247』『附譜 基督教聖歌集』(1884)の編集にあたりました。

一八七七年、日本で最初の讃美歌集『讃美歌一』(※歌詞のみ)を刊行したデヴィソンは、続いて楽譜付き讃美歌集の出版しようと意欲を燃やしました。しかし、英語の歌詞を翻訳し、一つ一つの音符に言葉を合わせ、美しい日本語の讃美歌”として仕上げることには困難を極めました。そのような折、海岸女学校の校長をしていた津田仙より紹介されたのが、当時十七歳で、海岸女学校に在籍していた松本 永井(英子)でした。

その聖歌集を編纂中に、あまつましみず”は作られたと言います。七五調で整えられた、この美しい日本語讃美歌は、作られてから一三五年来経った今も、多くの信者に愛唱されています。

稲垣真実)